

Society 5.0 時代を つくる人材育成に 向けて

「一身独立して一國独立す」。福澤諭吉の『學問ノス、メ』のなかの有名な言葉である。この言葉が表すように、古今東西、学問によって啓発された志ある人材がいてこそ新たな時代を創造し、国や組織の持続的な発展を可能としてきた。わが国では、IoT、AI等のデジタル技術やデータ活用の進歩によって、新たな社会 Society 5.0（創造社会）の実現を目指している。日本が掲げる Society 5.0 は、第4次産業革命を目指す諸外国の打ち出しとは異なり、人間を中心に据えている点が大きな特徴であり、「誰一人取り残さない」を基本理念とする SDGs（持続可能な開発目標）にもつながる。この「Society 5.0 for SDGs」という視点は日本の強みになるため、それを支える人材育成は非常に重要となる。 Society 5.0 時代の人材には、文系・理系を問

わず、論理的思考力や規範的判断力、未来社会の構想・設計力、課題発見・解決能力等が求められる。だからこそ政府でも教育改革を最重要課題の1つとして鋭意推進しているところだ。しかし、一人ひとりの人間がこれらすべての能力を身に付けることは容易ではなからう。したがって、「自立」した一人ひとりが個性や強みを伸ばし、多様な人々と「協働」しながら新たな価値を「創造」できる社会の実現が重要だ。この「自立」「協働」「創造」は、初等中等教育から高等教育に至るすべての段階で大切にすべき人材育成の理念だと考える。そして、さまざまな個性や能力を持つ人材が活躍し、新時代をつくる最良の集団へとマネジメントすることが経営者さらには経済界の使命といえる。

他方で、SDGs の基本理念にも照らし、「学



第一生命ホールディングス会長

わたなべこういちろう
渡邊光一郎

びのセーフティネット」を整えておくことも等しく重要である。

今年1月に経団連が大学側に呼びかけて設置した「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」では、Society 5.0 の実現に資する人材育成や採用・インターンシップのあり方、地域活性化に資する人材育成など裾野が広い議論をしてきた。

これからも産学の相互理解をより深め、 Society 5.0 時代をつくる人材育成に向けて、関連する委員会とも連携しながら、これまで以上に産学連携・協働を活性化し、実行する経団連として努力する所存である。

さらに「Society 5.0 for SDGs」の幅広い取り組みはいよいよ実行フェーズに入るが、中西会長のもと、皆様のご指導・ご支援をいただきながら、全力を尽くしてまいります。